

管内畜産農家のみどり認定取得事例

～環境負荷低減に向けた飼養管理の実践紹介～

春日井 大輝・村田 玲也（新城設楽農林水産事務所農業改良普及課）

【2026 年 10 月掲載】

【要約】

新城設楽管内でみどり認定を取得した3戸の畜産農家では、メタンガス削減効果のあるカシューナッツ殻液混合飼料や窒素排出量を低減できるゼオライト、必須アミノ酸を添加してアミノ酸バランスを改善した飼料を利用し、環境負荷を低減した飼養管理と生産性維持を両立している。今後も農家の実情に応じた環境負荷低減技術の普及を進めると共に、その経済効果を検証し、持続可能な技術発展と環境負荷低減の両立を目指していく。

1 はじめに（目的）

近年、地球温暖化対応への関心が高まっている。畜産由来の温室効果ガスは、農林水産分野由来のうち約3割（2023年実績）を占めており、これを少しでも削減し、環境に優しく持続可能な畜産業を実現するため、個々の畜産農家では様々な取組が進められている。「みどり認定」は、みどりの食料システム法に基づき、環境負荷低減に取り組む農家の経営計画を認定する制度である。2025年度、新城設楽管内において、3戸の畜産農家がみどり認定を取得した。

今回、これら農家が実践する環境負荷低減に向けた飼養管理を紹介する。

2 取組事例

（1）和牛繁殖農家A

和牛繁殖農家Aでは、繁殖和牛（母牛）を30頭、子牛を20頭程度飼養しており、増頭を進めている最中である。生育の良い和牛の生産を目指した飼料給与を行っていたが、牛のゲップから排出されるメタンガスなどの温室効果ガス削減といった環境への影響を意識した餌の配合には取り組んでいなかった。飼料効率が向上する飼料を検討していたところ、カシューナッツ殻液混合飼料（製品名：ルミナップP）がメタンガス削減効果もあると知り導入することとし、生育の良い和牛を生産すると同時に、削減にも効果のある飼養管理技術を開始した。

表1のとおりカシューナッツ殻液混合飼料を離乳後の子牛全頭への給与を開始した結果、子牛の鼓腸症の発生がなくなったため、鼓脹症予防としても効果的であると考えている。また、鼓腸症の発生減少により子牛の成育が改善したとともに、治療費の削減にも繋がっている。

今後は、繁殖成績向上とさらなるメタンガス排出抑制を目指し、母牛への給与拡大を検討すると共に、みどり認定取得の認知を肥育農家に広げ、子牛の価値向上に繋がっていきたいと考えている。

表1 給与飼料の詳細

給与飼料名	給与量(1日1頭当たり)	給与方法
ルミナップP	50g	濃厚飼料と同時

(2) 和牛繁殖農家B

和牛繁殖農家Bでは、繁殖和牛を21頭飼養しており、増頭を進めている最中である。環境負荷低減の取組は行っていなかったが、ゼオライトの添加が飼料効率の改善だけでなくみどり認定の対象技術にも該当していることから導入した。

ゼオライトの給与(表2)により、腸内の発酵ガスや有害物質が吸着され排出されるとともに、整腸作用により飼料効率を向上させることができる。これらの効果により、消化されずに流出する「無駄な」窒素排出を削減し、また、糞尿に含まれるアンモニアガスの削減が見込まれる。ゼオライトは嗜好性が良く、残った飼料に上から振りかけると食べるため、廃棄する飼料を減らすことができる。

これにより、飼料採食量が増加し、子牛の生育にも良い影響がみられている。また、牛舎内で糞臭が軽減されたことから、整腸効果に加え、悪臭の低減にも寄与していると考えている。

表2 給与飼料の詳細

給与飼料名	給与量(1日1頭当たり)	給与方法
ゼオライト	30g	粗飼料・濃厚飼料給与後

(3) 肉用鶏農家C

肉用鶏農家Cでは、名古屋コーチンを25,000羽常時飼養しており、年間50,000羽を出荷している。環境負荷低減の取組は行っていなかったが、必須アミノ酸の添加がみどり認定の対象技術と知り、農場のPRにつながると考えたためみどり認定を取得した。

飼料中のアミノ酸バランスを改良し、粗タンパク質含量を減らした飼料を育成後期に利用することにした(表3)。これにより、飼料効率は向上するため産肉性を維持しつつ、吸収されずに糞尿中に排出される窒素の量を低減することができる。現時点で、この飼料を給与し始めたことによる悪影響等は見られず、増体量や出荷率も維持できている。また、環境負荷低減の取組を行い、みどり認定を取得することで、近隣住民の畜産に対する理解醸成が期待される。

今後は、農場やブランドのPRを強化する方針であり、消費者への効果的な情報発信手法の習得が今後の課題となる。

表 3 給与飼料の詳細

飼料原料	配合割合
穀類（精白米、玄米、トウモロコシ）	65%
植物性油粕類（ごま油かす、大豆かすなど）	24%
そうこう類（米ぬか）	6%
その他（リジン等必須アミノ酸を含む）	5%

3 最後に

みどり認定取得を通し、生産性を維持しながら環境負荷低減に向けた飼養管理を行っている事例を紹介した。現在、農業改良普及課では、みどり認定取得の更なる波及を目指し普及活動を行っている。それぞれの農家に適した環境負荷低減の取組を提案し、農家と相談しながら実践に向けて活動を継続していく。